Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

PPS023-01 会場:303 時間:5 月 26 日 08:30-08:45

# 月惑星探査の来たる10年：現在までの検討状況と今後の予定
# Lunar and planetary explorations in a coming decade: Current status and ongoing schedule

並木 則行 [1*], 小林 直樹 [2], 大槻 圭史 [3], 出村 裕英 [4]
Noriyuki Namiki[1*], Naoki Kobayashi[2], Keiji Ohtsuki[3], Hirohide Demura[4]

[1] 千葉工業大学, [2]JAXA 宇宙科学研究本部固体惑星科学研究系, [3] 神戸大学, [4] 会津大学
[1]PERC/Chitech, [2]Department of Planetary Science, ISAS, [3]Kobe University, [4]The University of Aizu

日本惑星科学会 将来惑星探査検討グループでは，日本の惑星探査の長期的な展望を検討し，その検討結果をまとめた報告書の作成を目指している．この検討活動は惑星科学のコミュニティが，惑星科学会会員，非会員を問わず，自らの責任において将来像を描いていく作業である．著者らは事務局としてこの検討作業を支援している．

近年でははやぶさ，かぐやの探査の成功もあって宇宙開発を政策的に推し進めようという機運があり，惑星探査の機会が増えつつある．しかしながら，我が国の惑星探査科学の長期的な成功・発展のためには，科学的視点に立った探査計画の立案のみならず，人材育成や関連基礎研究の推進を含め，惑星探査科学を強力に推進する体制の確立を，惑星科学コミュニティとして益々強化して行くことが不可欠であり急務である．今，個々の研究者はもちろん，コミュニティ全体が強い意志で自律的かつ主体的に探査を推進していくことが求められている．

長期ビジョンの策定を開始するにあたり，我々は以下の５点を検討方針の要点と考えた.（A）惑星科学コミュニティの力量を自覚し，２０１７年から２０２７年までの惑星探査将来計画を自主的に検討することを目的とする.（B）惑星科学の第一級の科学（“ トップサイエンス ”）を抽出するとともに，観測機器提案・ミッション機器提案を募って，コミュニティが支えるミッションを創成する.（C）作業は三段階に分けて行う．第一段階ではトップサイエンスを抽出し，第二段階ではミッション提案と観測器提案を科学的重要性に基づいて統合・改良し，第三段階ではミッション提案と観測器提案の実現性評価を行う.（D）各段階で学会・シンポジウム等での中間報告を繰り返して，広く意見聴取を図る.（E）他の宇宙科学関連学会・コミュニティとの連携を図る．これらを達成するために，検討作業全体には２．５～３年程度がかかると想定している．

２０１０年連合大会において我々は本セッションを開催し，５つのパネルを設置した．即ち,（１） 地球型惑星固体パネル,（２）地球型惑星大気・磁気圏パネル,（３）小天体パネル,（４）木星型惑星・氷衛星・系外惑星パネル,（５）アストロバイオロジーパネル，である．各パネルは検討の第一段階として，それぞれのカテゴリについいてのトップサイエンスの抽出を行った．広くコミュニティからトップサイエンス提案を受け付け，２０１０年９月１０日に神戸大学において公開討論会を開催した．さらに２０１０年１１月より２０１１年１月末にかけて,（１）,（３）,（４）,（５）の４つのパネルで分科会を開催し，取りまとめを行った．本セッションでは各パネルリーダーよりそのとりまとめが報告される．

キーワード: 惑星探査
Keywords: Planetary exploration